

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 6 年 1 月 24 日

協議会名： 粟島浦村地域公共交通協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
粟島浦村	県道ルート	【R4事業評価・改善点】引き続き利用しやすい環境づくりのため、乗降場の在り方等を検討する。 ・ 利用客数が多い停留所の風雨よけをR5年度に整備を計画。その他の停留所に関しても、引き続き利用しやすい環境づくりを検討する。 【R4事業評価・改善点】村内の事業者とも連携し、外出意欲が高まるような事業を推進する。 ・ コロナ感染症が感染症法第5類に移行されたことにより、全国的な移動制限がほぼ緩和された。これに伴い、来島者数の増加傾向が認められ、島内の移動も活発化している。さらに島内行事の再開やイベントの復活で、住民の移動需要度も増している。	A 概ね計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 住民利用は2,172名（1人あたりの利用回数6.5回）となり、目標2,548人（1人あたりの利用回数7.7回）は達成できなかった。運行予定(時刻表)と、希望利用時間帯とにズレが生じたのではないかと推測する。また、村人口の減少も要因と考えられる。	・ 各停留所の利用・設置状況のほか、利用時間帯などを調査・検討し、引き続き利用しやすい環境整備に努める。 ・ コミュニティバス事業継続の要望は依然として高いため、より良い運用方法を村内の事業者(宿泊、観光、農水産業)及び生活者から要望を汲み上げ、対費用的にも適切な公共交通体制の再構築を検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6 年 1 月 24 日

協議会名：	粟島浦村地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	(1) 事業の目的 粟島浦村は、新潟市の北方約63km、村上市岩船港の北西約35kmの日本海に浮かぶ面積9.78km2、周囲22.3km、人口353人（令和2年国勢調査）の孤立小型離島で、島のほとんどを山地・丘陵地が占め、漁業及び観光関連産業が基幹産業となっている。村内には、粟島と本土村上市岩船港を結ぶ定期船乗り場（粟島港）、村役場、小中学校を始めとする主要な公共公益施設が立地する東海岸の内浦地区と、山地を挟んで西海岸に位置する釜谷地区の2集落がある。村内には旅客自動車運送事業者はなく、いわゆる公共交通空白地域である。2集落間の陸上移動に定期的な移動手段はない。内浦地区の粟島港と本土村上市岩船港を結ぶ唯一の粟島離島航路は、定期航路として高速船とフェリーの2隻が就航している。粟島離島航路は本土からの生活物資及び本土への生產品の輸送に、村民・観光客の運送に重要な地域間交通となっている。 こうした離島としての特性をもった本村の「定住環境の確保」及び「産業振興の推進」に向けた地域づくりの課題に対応し、住民や観光客の意向を把握・反映させた離島航路、陸上交通について総合的な公共交通という視点から、「粟島浦村地域公共交通協議会」における協議を経て『粟島浦村地域公共交通総合連携計画』を策定した。本事業は『粟島浦村地域公共交通総合連携計画』に位置づけた地域公共交通計画のうち、粟島離島航路と接続する村内及び本土村上市中心部における陸上交通の確保維持を推進することを目的とする。 (2) 事業の必要性 ① 村内交通の確保維持 村内には旅客自動車運送事業者がないため、釜谷地区からの通学のためのスクールバスを、余裕がある範囲内で住民全体が利用していた。しかし、こうした状況は少子高齢化が顕著な住民の日常生活に深刻な影響を与えていくと懸念されていた。また、観光客も村内のキャンプ場等への移動に苦慮しており、本村の観光振興を図る上でのネックともなっていた。 このような状況を背景として、粟島浦村地域公共交通協議会での協議を経て、市町村運営有償運送によるコミュニティバスの実証運行を実施した。これは、定期航路と接続し、村内移動手段になるとともにスクールバスも兼ねた唯一の公共交通機関となる。住民、観光客の利用意向は高く本格運行として継続していくことが望まれ、平成24年度から本格運行を開始した。 ② 岩船港～村上市中心部間交通の確保維持 結節点である岩船港と、駅及び病院等公共公益施設や商業施設が集積する村上市中心部を結ぶ交通は、民間バス1路線と民間タクシーがある。しかし、バス路線は岩船港直近の停留所が約1km離れているうえ1日の運行本数が少ないため、自家用車など他の移動手段を持たない住民や鉄道を利用した観光客（来島観光客の約1割弱）のほとんどがタクシーを利用しているが、船賃と合わせると高額となる交通費が負担となっている。 これを軽減するため、粟島浦村地域公共交通協議会での協議を経て、岩船港で定期航路と接続して村上市中心部を結ぶ乗合タクシーの実証運行を実施した。住民を始めとして利用意向は高く本格運行として継続していくことが望まれ、平成24年度から「村上総合病院系統（岩船港～村上総合病院～村上市中心部）」として本格運行を開始した。平成28年度より当系統は国庫補助対象から外したが、必要性は高く、事業は継続している。